

中国・上海 LNG 基地向け 世界最大規模 LNG 冷熱発電設備(4000kw)を納入

株式会社 IHI プラント(所在地:東京都江東区, 社長:青木 亮治, 以下「IPC」)が 2019 年に受注した上海液化天然ガス有限公司(Shanghai LNG Company Ltd.)(*1)向けの LNG 冷熱発電設備(*2)(以下「本設備」)が完成し, このたび引き渡しました。



この LNG 冷熱発電設備建設工事は, IPC が 2009 年に建設・納入した 16 万 5000 キロリットルの LNG タンク 3 基を含む LNG 受入基地内に, LNG の冷熱を利用し 4000KW のタービンを用いて発電する冷熱発電設備を増設したものです。

世界的なカーボンニュートラル化に向けてエネルギー転換が進む中で, 化石燃料の中でも GHG 排出量の最も少ない LNG は, 引き続き世界のエネルギー需要において重要な役割を担っていくことが予想されます。本設備の導入により, 従来使用せずに廃棄されていた LNG の冷熱を有効利用することで CO2 の排出を年間最大 1 万トン削減することが可能になります。

IPC は, これまでも同様の発電設備を日本国内に納入した実績があり, 今後は世界的に需要が見込まれる海外 LNG 基地にも普及させることを目指しています。また, IHI グループの一員として, 環境・社会に十分配慮した事業を推進し, カーボンニュートラルを含めた社会課題の解決に貢献してまいります。

(*1) 上海液化天然ガス有限公司: 申能(集団)有限公司(Shenergy (Group) Company Limited, 上海市の電力・ガス供給会社)が 55%, 中海石油天然気及

発電有限公司（CNOOC Gas & Power Group Co., Ltd., CNOOC の LNG 部門の 100%子会社）が 45%出資した上海 LNG 受入ターミナルの事業会社

(*2) LNG 冷熱発電設備：従来の LNG 気化器の持つ LNG 気化機能に，海水を熱源，LNG を冷却源，プロパンを中間媒体としたランキンサイクル発電機能を付加した LNG 気化／発電システム

【参考資料】

冷熱発電の原理図

